

2022年度 日本工学院専門学校											
電子・電気科/電気工学コース											
電気応用実験 2											
対象	2年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	120	単位	4
担当教員	渡邊 菅原	和之/長須 宏之/一杉	俊浩 和良	実務 経験	有	職種	電気主任技術者				
担当教員紹介											
<p>(菅原) 本校で30年以上の電気工学に関する教育経験および本校関連施設の電気設備の電気主任技術者としての実務経験を持つ。保有資格は、第二種電気主任技術者、第一種電気工事士。</p> <p>(一杉) 大学や専門学校の講師として20年を超える電気の基本から応用までの授業（サイエンス・電気回路・電気機器・電動応用・高圧電気技術・電気法規など）を担当した実務経験を持つ。</p>											
授業概要											
<p>電気工学コースの本質的な理解目標である「電気とは何か?」を理解する為に、この科目では講義科目で学んだ基本的な電気の性質、ならびにそれらを利用した機器などを実習を通じて理解することを目的とする。</p>											
到達目標											
<p>この科目では、学生が講義科目で学んだ電気エネルギーを利用する様々な方法・機器を実習を通じて総合的に理解し、回路図からの実配線方法、各種機器の取扱い方法を習得し、今後の実習科目を自主的に進めていくことができる基礎を習得することを目標とする。</p>											
授業方法											
<p>この授業では、講義科目で学んだ各種特性測定等をグループによる実習で行う。他人が実習内容をどの程度理解しているか、さらにそれをどのように伝えていくかを意識しながら、授業を進める。授業中での行動を通じて、学生の「ジェネリックスキル」を育成していく。この授業に主体的に参加する学生が、グループワークを理解し自主的に行動できるようになることを目指す。</p>											
成績評価方法											
レポート	90%	授業内容の理解度を確認するために実施する									
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
<p>この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。実習科目の為、理由の有無に問わず遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。											
回数	授業計画										
第1回	実験の心構えおよび進め方を理解する										
第2回	三相同期発電機の無負荷試験・短絡試験を行い、同期インピーダンス、短絡比、電圧変動率、効率を算定する										
第3回	三相同期電動機の始動法を習得し、位相特性、負荷特性を理解する										
第4回	レポート指導ならびに各実験テーマに対する研究を行い、各テーマについて深く理解する										
第5回	送電線の線路定数、無負荷および負荷特性ならびに定電圧送電を行うに必要な調相容量の測定を行う										

2022年度 日本工学院専門学校	
電子・電気科/電気工学コース	
電気応用実験 2	
第6回	巻線形三相誘導電動機の回転子巻線の抵抗を変化させ、起動特性および比例推移現象を理解する
第7回	誘導電動機の手動制御法の一方法である周波数制御法を可変周波数電源の一種であるGTOインバータを用いて行い、電源周波数と回転数の関係を理解する
第8回	レポート指導ならびに各実験テーマに対する研究を行い、各テーマについて深く理解する
第9回	液面、流量の各モデルプラントを運転し、プロセス制御の概念と、調節計の取扱い方を習得する
第10回	産業用他、多方面に利用されている多関節ロボットの操作実験を通してロボットについての認識を深める
第11回	プログラムシーケンサの概要を理解し、シーケンサによるプログラムを自作できるようにする
第12回	レポート指導ならびに各実験テーマに対する研究を行い、各テーマについて深く理解する
第13回	大気における各種電極の火花電圧を測定して、電極間隙の絶縁耐力ならびに火花放電特性を比較する
第14回	オペアンプを用いて基本回路をブレッドボード上に作成し、その特性測定を行い基本的な知識を習得する
第15回	レポート指導ならびに各実験テーマに対する研究を行い、各テーマについて深く理解する